

Aちゃんを大切にしてください

Aちゃんを中心にした生活を支援したいという話

ヘルパーさんたちと
楽しくコミュニケーションしよう

卒業後の生活を支援する

香川県立高松養護学校 佐野将大

卒業生のAさん

- 重度の知的障害と身体障害
- 長座で座ることができる
- 感覚運動段階
- 身体の動き、発声がある
- 要求、注意喚起、接近行動は見られない



卒業後の生活支援を検討した事例です

これまで実践してきたこと

- **iPad** 自発的反応の変容過程の報告
- **OAK** 反応の可視化を通しての認知能力の把握
- **飲み物** どのように聞き取れば良いのかの検討
- **おもちゃ** 遊びを成立させる方法の検討

これらの成果をどのように
卒業後の生活に具体的に結び付けていこう

卒業後の生活はどうですか？



① 事業所で

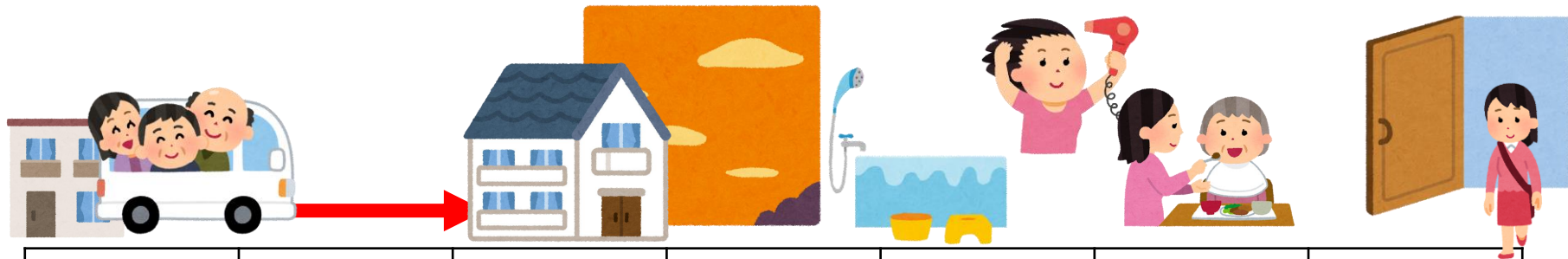


② ヘルパーさんと



③ 家族と

※イメージ



1 事業所① ヘルパーA	2 事業所① ヘルパーB	3 事業所② ヘルパーB	4 事業所③～① ヘルパーA	5 事業所① ヘルパーC	6 事業所③	7
8 事業所① ヘルパーA	9 事業所④ ヘルパーD	10 事業所②	11 事業所③～① ヘルパーA	12 事業所③～① ヘルパーC	13 ショートステイ①	14 ヘルパーE
15	16 事業所① ヘルパーB	17 事業所② ヘルパーB	18 事業所③～① ヘルパーF	19 事業所③～① ヘルパーC	20 ヘルパーG	21 ヘルパーE
22 事業所① ヘルパーA	23 事業所① ヘルパーB	24 事業所②	25 事業所③～① ヘルパーA	26 ヘルパーH ショートステイ②	27	28
29 事業所① ヘルパーA	30 事業所① ヘルパーB	31 事業所②				

たくさんのヘルパーさんにお世話になっている保護者の思い

- 娘も大人になり家族で過ごす時間も少なくなってきたなかで、ゆっくりと関わってくれる場があること、とてもありがたく思っています。
- 娘と普段どのように関わってくれているのだろう、と時々を考えます。こういう風に反応を読み取ったらいいんですよ、とか、こう関わったらお互い楽しいかもですよ、とか伝えたいような気もするし、いやいや娘はもう大人なんだから、任せた方がいいんだろうとか。でも、そのような話題から避けるというのもおかしいし、いい距離をつかみたいと思っているんです。

ヘルパーさんたちは、どのように関わっているのだろうか？

赤松・中邑（2019）

日常コミュニケーション調査票

飲み物、音楽、おもちゃ、の場面で
どのようにヘルパーさんたちが
Aさんとかかわっているか

ということを把握する

1. 飲み物

1. 飲み物

1-1. 子どもへの水分補給で一番よく使う飲み物は何ですか？

1-2. その飲み物を子どもに飲ませた時に、子どもの動きや表情に変化はありますか？

☐ ある ☐ ない ☐ 分からない

1-3. 子どもはその飲み物が好きだと思いますか？

1 2 3 4 5
とても嫌い 少し嫌い どちらでもない 少し好き とても好き

1-4. 1-3の判断について、どのくらい自信がありますか？

1 2 3 4 5
全く自信がない 少し自信がない どちらともいえない 少し自信がある とても自信がある

1-5. その飲み物以外に飲ませたことのある飲み物はどんなものがありますか？
(お茶は種類まで答えてください)

☐ それ以外に飲ませたことがない
☐ それ以外にも飲ませたことがある
→それは何ですか？思い出せる範囲で教えてください

1-6. これまでに飲ませた飲み物の中で好き嫌いは分かりますか？

☐ 分かる →問1-7へ ☐ 分からない →問1-9へ

1-7. 1-6で分かると答えた人は、それをどういところで判断していますか？

☐ 飲む量 ☐ 表情の変化 ☐ 発声 ☐ 体の動き ☐ 視線
☐ 飲み物が終わると訴える動きがある ☐ その他 ()

1-8. 1-7の判断について、どのくらい自信がありますか？

1 2 3 4 5
全く自信がない 少し自信がない どちらともいえない 少し自信がある とても自信がある

1-9. 飲み物を飲ませる手順など、気をつけていることはありますか？

☐ ある →問1-10へ ☐ ない →次のページ問2-1へ

1-10. 1-9でであると答えた人は、その気をつけていることはどんなことですか？

☐ 子どもの名前を呼ぶ ☐ 飲み物の名前を言う ☐ 飲み物を見せる
☐ 飲み物の匂いを嗅がせる
☐ 飲む量をチェックしている ☐ 複数の種類を飲ませるようにする
☐ 好きな飲み物を飲ませるようにしている
☐ 口に含ませてからしばらくの間待って見る
☐ その他 ()

[1. 飲み物]

1-1. 子どもへの水分

1-2. その飲み物

☐ ある

1-3. 子どもはそ

1

とても

1-4. 1-3の判断に

1

全く目度

1-5. その飲み物
(お茶は種

☐ それ以外

☐ それ以外

→それは

(

1-6. これまでに

☐ 分かる

1-7. 1-6で分かる

☐ 飲む量

☐ 飲み物

1-8. 1-7の判断に

1

全く目度

1-9. 飲み物を飲ませ

☐ ある → 問1-10へ

☐ ない → 次のページ 問2-1へ

1-10. 1-9であると答えた人は、その気をつけていることはどんなことですか？

☐ 子どもの名前を呼ぶ

☐ 飲み物の名前を言う

☐ 飲み物を見せる

☐ 飲み物の匂いを嗅がせる

☐ 飲む量をチェックしている

☐ 複数の種類を飲ませるようにする

☐ 好きな飲み物を飲ませるようにしている

☐ □に言わせてからしばらくの間待って見る

☐ その他 ()

日常生活の中で多くの子どもが行う
「飲む」「音楽を聞く」「おもちゃで遊ぶ」
という行為に限定し、それぞれの場面で
何をしているかを確認してもらうもの

この調査票への記入を通して
他者との違い、専門家との違いから
かわり方の課題に気付くことができる

(赤松, ATAC2019 proceedings)

手続き

日常コミュニケーション調査票を用いて調査

対象：ヘルパーさん7名 家族3名 実践者1名

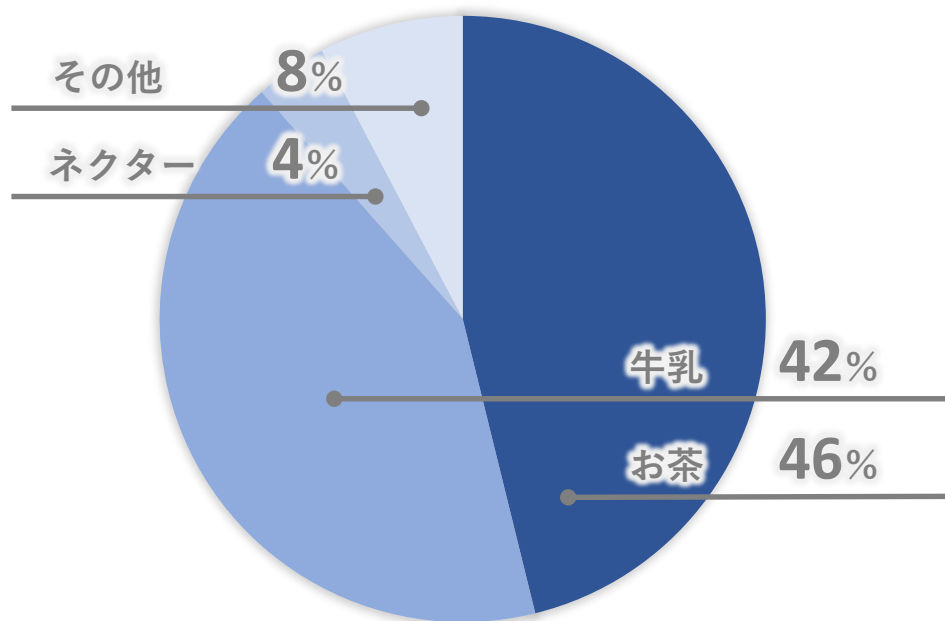
検討：結果をもとに、実践者と保護者で介入案を検討

介入：実践を行った後、ヘルパーさんに聞き取り

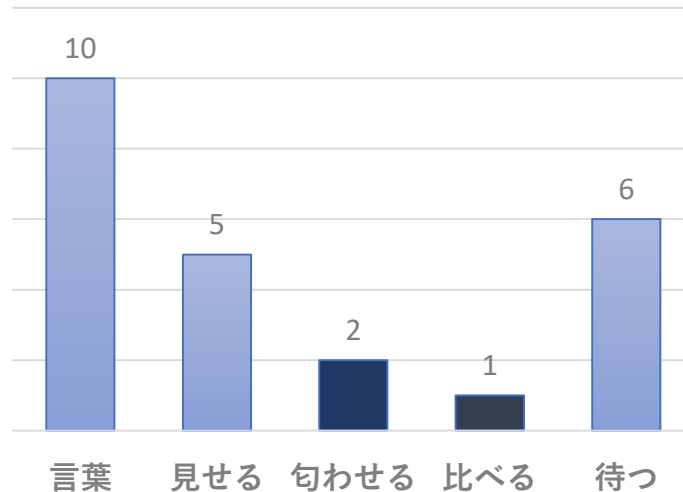
結果 1 飲み物について

●日常コミュニケーション調査票「飲み物」の結果

Aさんに飲ませている飲み物は何ですか



気をつけている手順はありますか



データの特徴

- ・88%が牛乳とお茶のみ
- ・その他は「家族」のみ
- ・ネクターと答えたのは1名
- ・匂わせるの手順をしているのも「家族」のみ

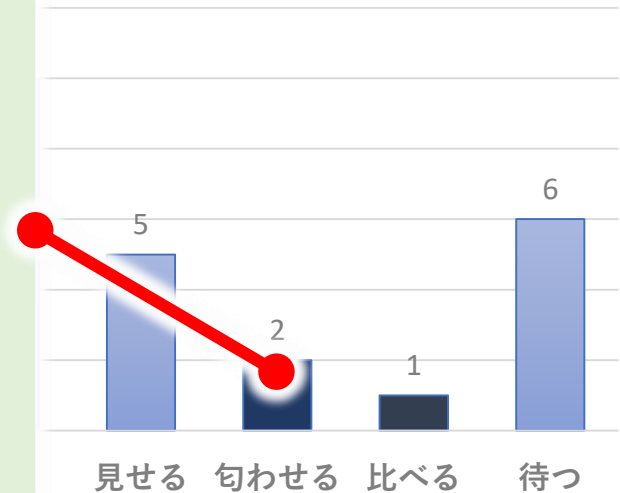
結果 1 飲み物について

●日常コミュニケーション調査票「飲み物」の結果

Aさんに飲ませている飲み物は何ですか



気をつけている手順はありますか

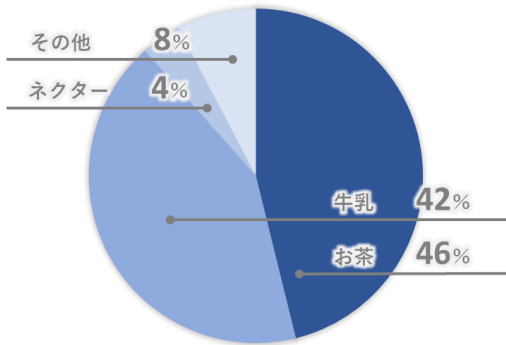


特徴

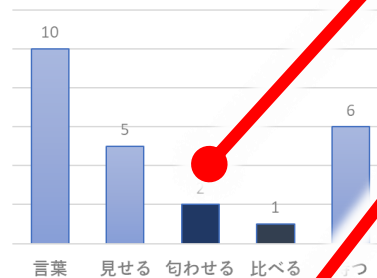
- ・88%が牛乳とお茶のみ
- ・その他は「家族」のみ
- ・ネクターと答えたのは1名
- ・匂わせるの手順をしているのも「家族」のみ

介入案の検討

Aさんに飲ませている飲み物は何ですか



気をつけている手順はありますか



データの特徴

- ・88%が牛乳とお茶のみ
- ・その他は「家族」のみ
- ・ネクターと答えたのは1名
- ・匂わせるの手順をしているのも「家族」のみ

ヘルパーさんは今やっていない手順「匂わせる」を

保護者は「飲み物」の準備をすれば

みんなが無理なく楽しく

AさんのQOLが向上するかもしれませんね！

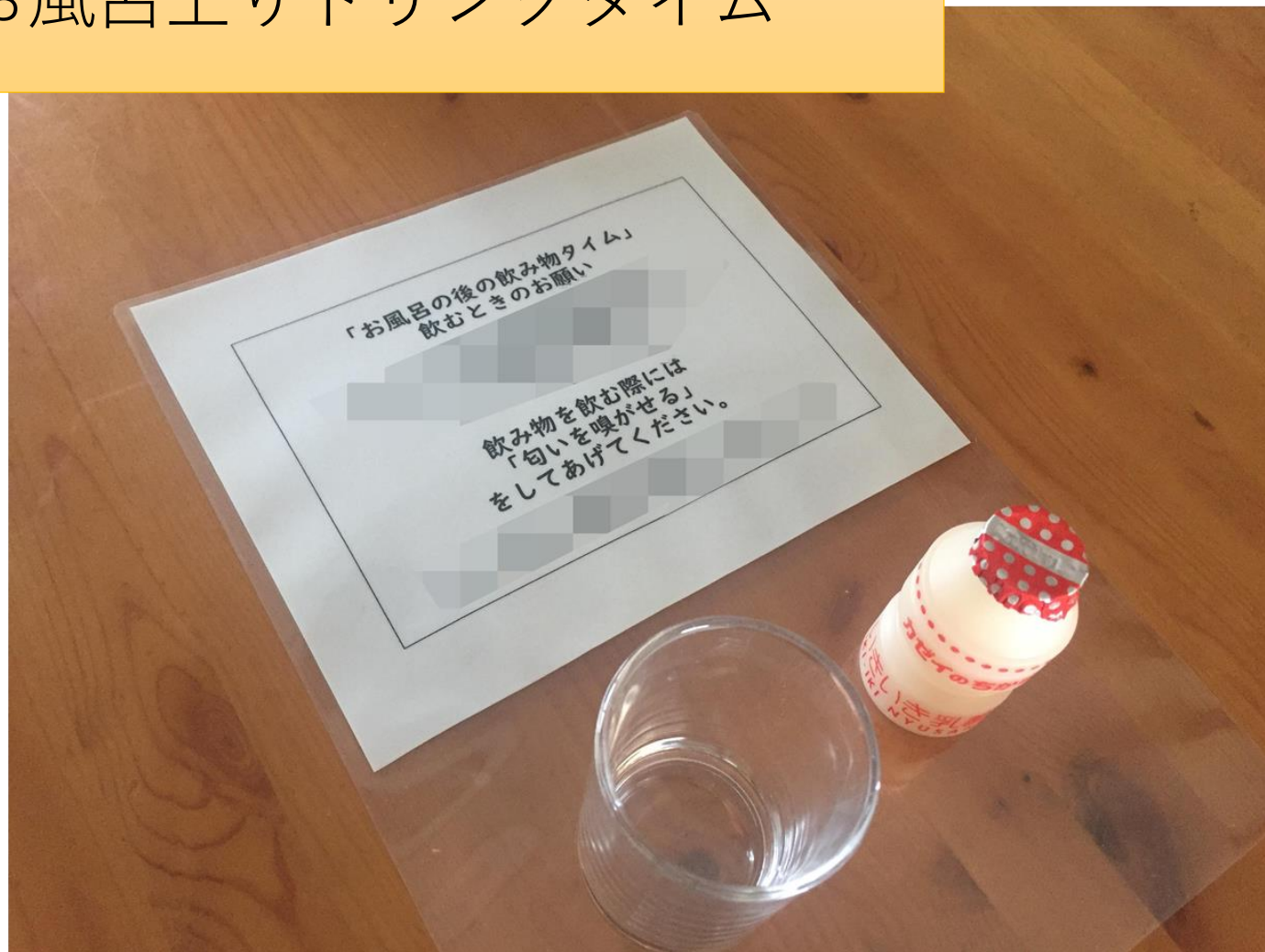
飲み物実践の結果

「みせて、匂わせて、待つ」ことで、
自分から飲みに来たり、顔をそむけたりする行動が
増加することを確認



介入案の実施

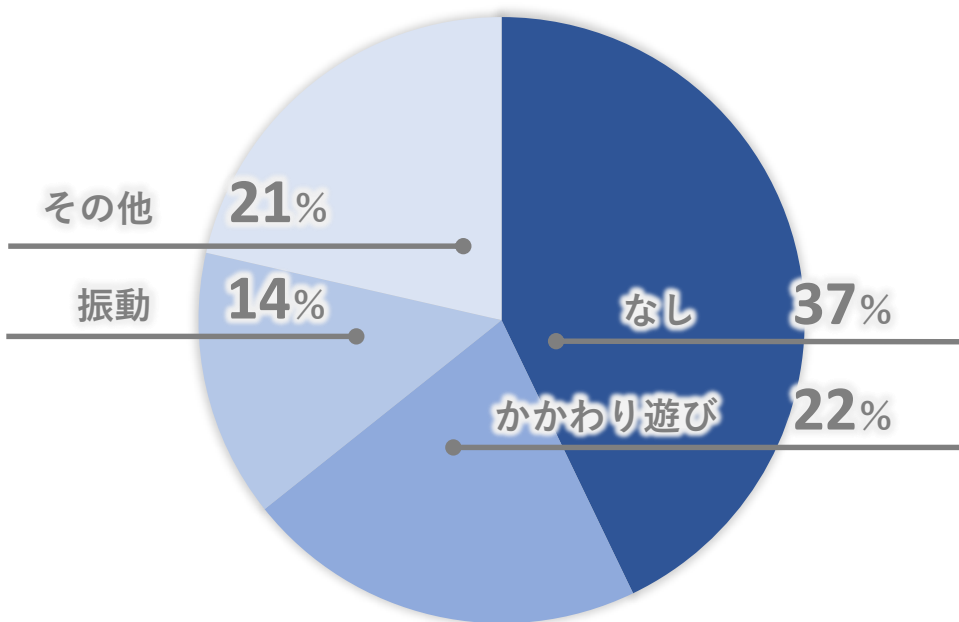
お風呂上りドリンクタイム



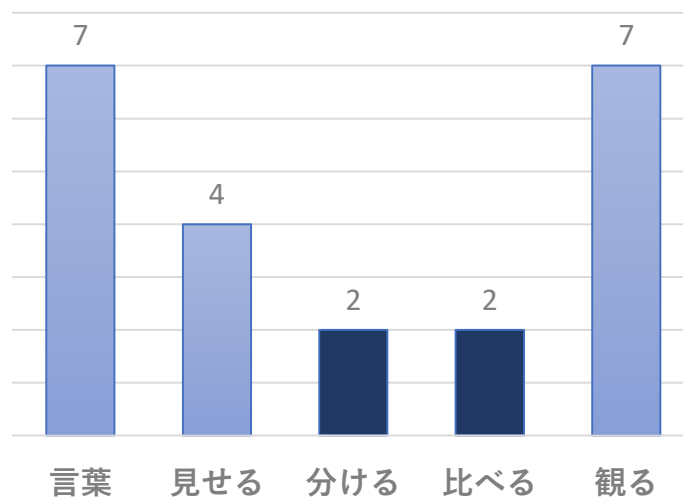
結果2 おもちゃについて

●日常コミュニケーション調査票「玩具」の結果

Aさんと遊んだことのあるおもちゃは何ですか



気をつけている手順はありますか



データの特徴

- ・ヘルパーさんは「なし」「かかわり遊び」に集中
- ・具体的なものを使った振動は家族のみ
- ・その他は家族とヘルパーさん2名
- ・分ける、比べるは家族のみ

結果2 おもちゃについて

●日常コミュニケーション調査票「玩具」の結果

△さんと遊んだことのあるおもちゃは何ですか

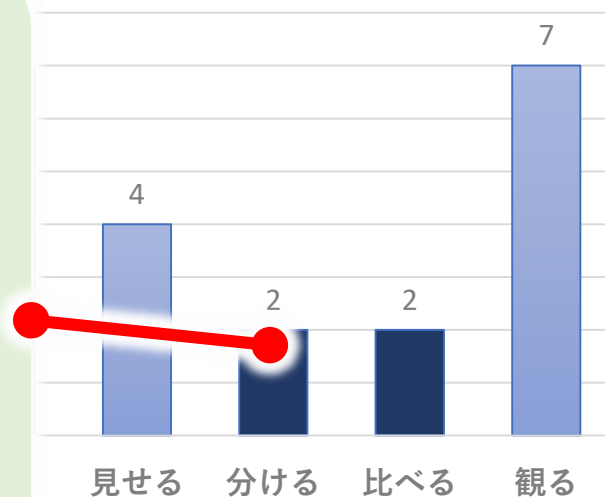


振動マッサージ器で遊ぶ



近づく 見せる 聞かせる 待つ

気をつけている手順はありますか



の特徴

パーさんは「なし」「かかわり遊び」に集中
は家族のみ
他は家族とヘルパーさん2名

る、比べるは家族のみ

結果2 おもちゃについて

●日常コミュニケーション調査票「玩具」の結果

△さんと遊んだことのあるおもちゃは何ですか



振動マッサージ器で遊ぶ



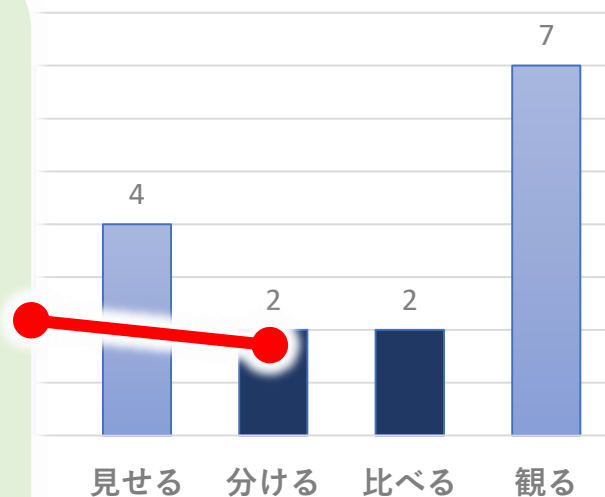
近づく

見せる

聞かせる

待つ

気をつけている手順はありますか



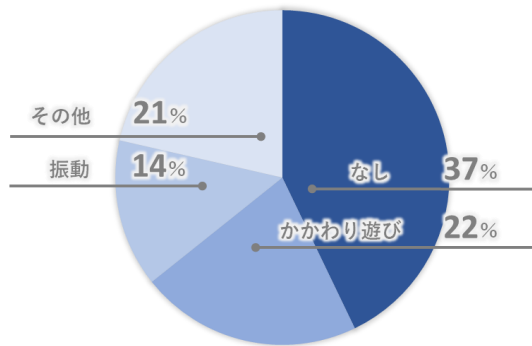
の特徴

パーさんは「なし」「かかわり遊び」に集中
は家族のみ
他は家族とヘルパーさん2名

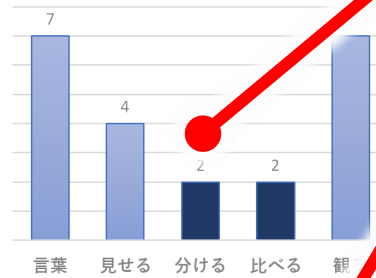
る、比べるは家族のみ

介入案の検討

Aさんと遊んだことのあるおもちゃは何ですか



気をつけている手順はありますか



データの特徴

- ・ヘルパーさんは「なし」「かかわり遊び」に集中
- ・振動は家族のみ
- ・その他は家族とヘルパーさん2
- ・分ける、比べるは家族のみ

ヘルパーさんには「刺激を分けて遊ぶ方法」を伝えて

保護者は「おもちゃ」や「遊ぶ環境」を準備すれば

AさんのQOLが向上するかもしれませんね



観察実践（OAK）の結果

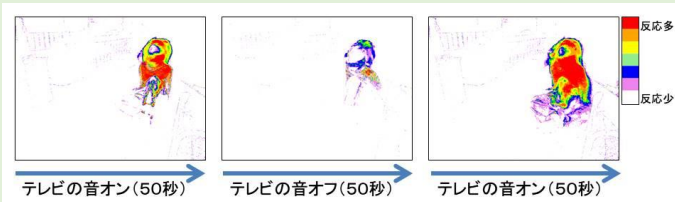


Figure.1 テレビの音オフへの反応（2014年4月12日）

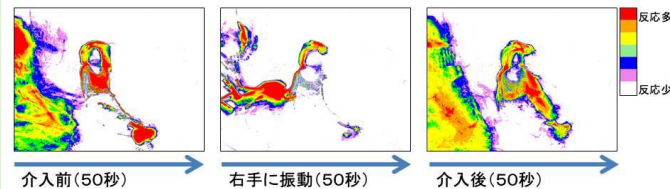


Figure.2 右手に振動への反応（2014年5月19日）

音

振動



介入案の実施

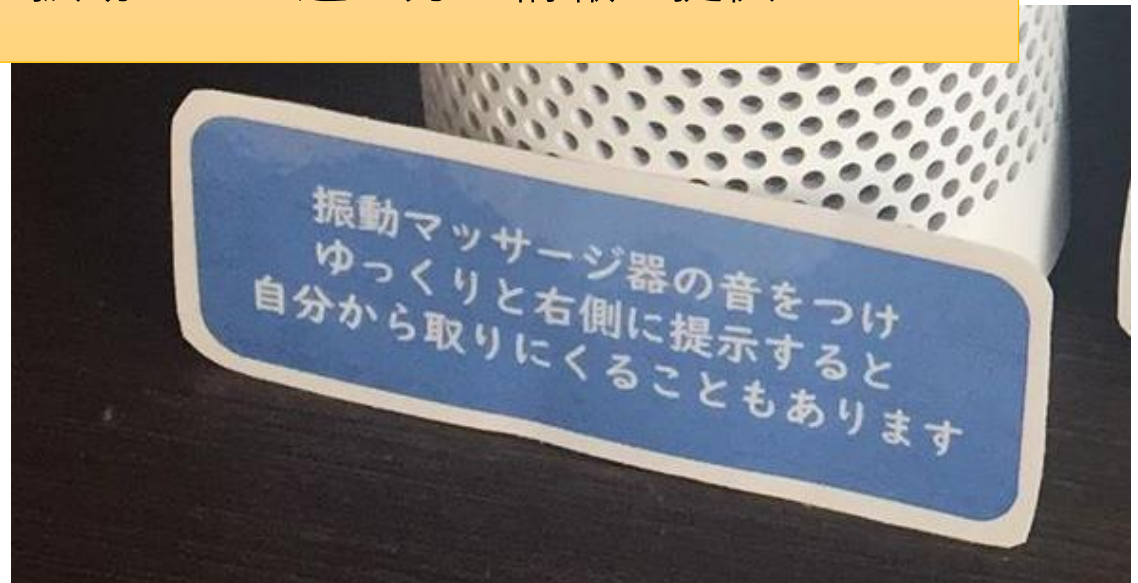
お風呂のなかでもできる
遊び方の情報提供



シャワーで遊ぶこともできます
「音を聞かせる」「右手の少し前で
シャワーを提示して待つ」を
試してみてください

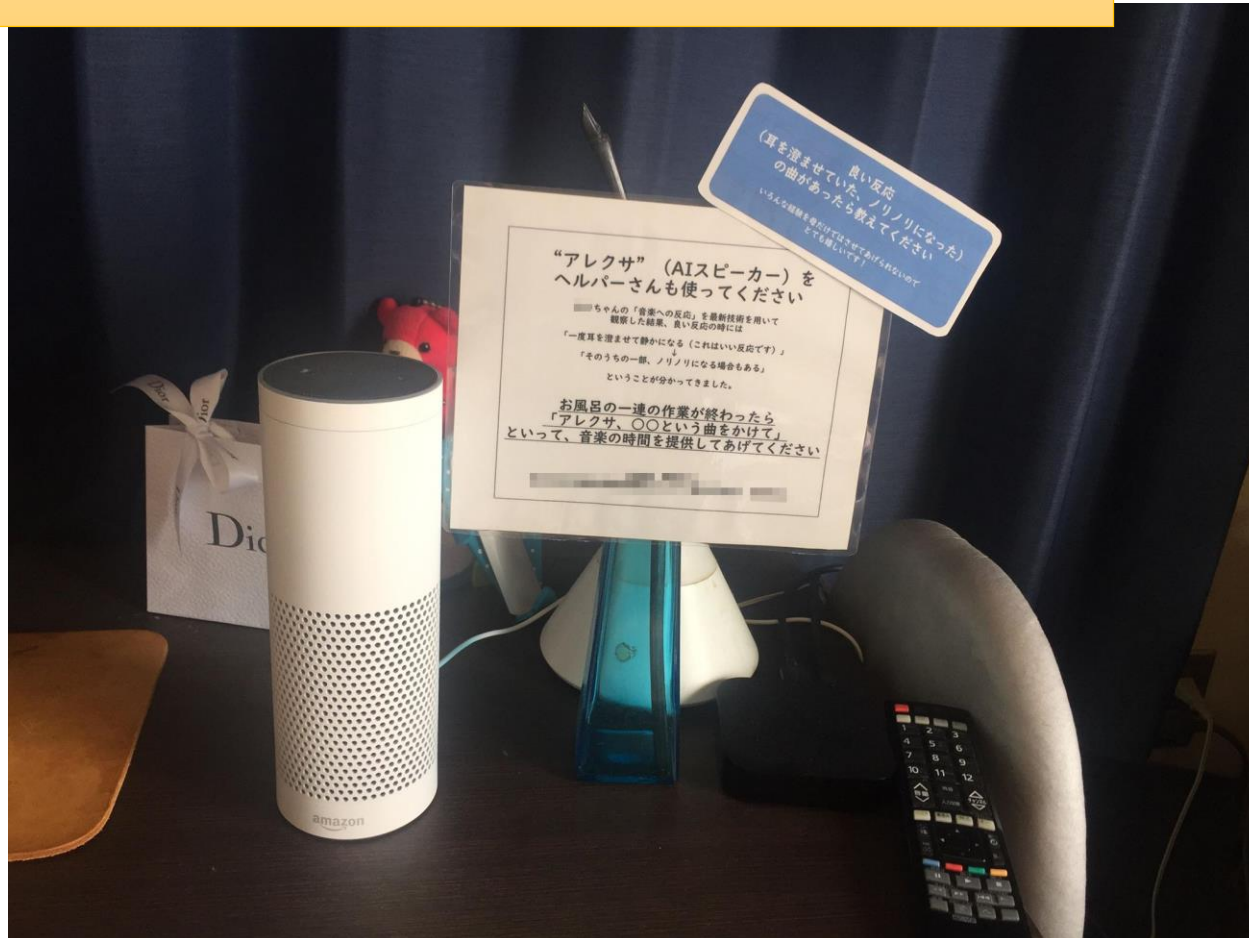
介入案の実施

振動 での遊び方の情報を提供



介入案の実施

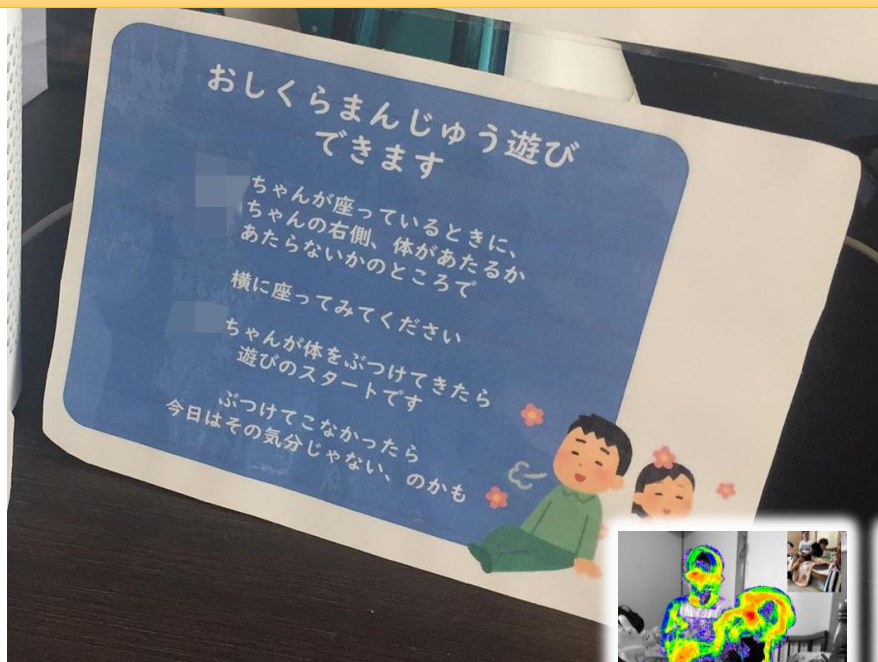
アレクサでも遊んでね



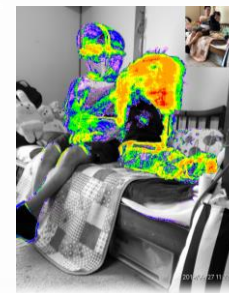
結果 3

介入案について検討したり確かめたりしているときに新しく発見したこと

“おしくらまんじゅう遊び”の方法について情報提供



おしくら
まんじゅう
遊び



右隣に座っていると安定して始まる遊び

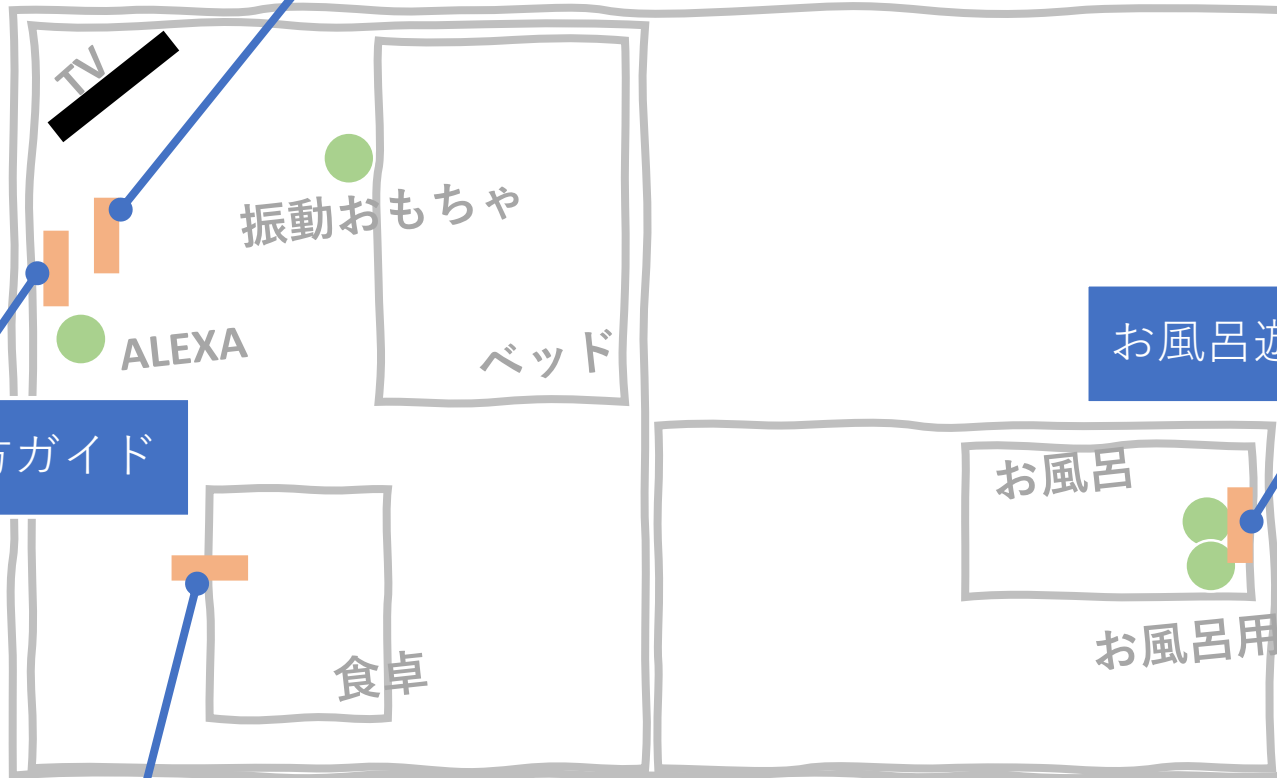
提案の全体像

おしくらまんじゅう遊びガイド

ALEXA遊び方ガイド

のみものガイド

お風呂遊び方ガイド



振動おもちゃ

ALEXA

ベッド

お風呂

食卓

お風呂用おもちゃ

ヘルパーさんの感想



道具を使わず「提示して待っていることで」
遊べるもの（シャワー遊び、おしくらまんじゅう遊び）
については特に遊びやすく
新しい発見がありました（3名）。

アレンジして遊ぶこともできました。お風呂の電
気を消してみても反応を確かめました（1名）。

「匂わせる」「待ってみる」というのがヒントに
なりました（1名）。

保護者の感想

話題にしたいけど、話題にしにくいという気持ちがありました。が、“調査票”で、このようなことを大切にしたいです、という思いが自然に伝わったと思います。アンケート→提案の流れが良かったです。気軽に話題をスタートさせることができました。

無理に子どもとのかかわり方を伝えるのも嫌だし、全てをお任せして何もできないのも気になっていました。私もヘルパーさんも、無理なく楽しみながら気が付いていってもらえる、形になっているのではないかと思います。



今までやってきたこと

- 確認したいと思った内容をどうすれば確認できるか？

Aさんのコミュニケーション
を豊かにしたい

Aさんからの発信を記録し
現状の把握をしたら良いのでは

Aさんからの発信の記録が
どうも曖昧である

要求や拒否が見られない
場合、何を重視して
記録したらいいの？

実践しながら
検討してみよう

学校や魔法、
研究会の
沢山の仲間たちと

様々な発見や学び

- 行動（反応）のサンプルの集め方、活用方法が整理されてきた

集めるべき「行動」が
分からない

要求や拒否として行動を記録しにくい
場合には定位反応を集めれば良い
動き量の増減を捉えると効率が良い

確かめ方が分からない

刺激を分けて、前後を比べてみれば
何に対する反応か、可視化しやすい

解釈の仕方が分からない

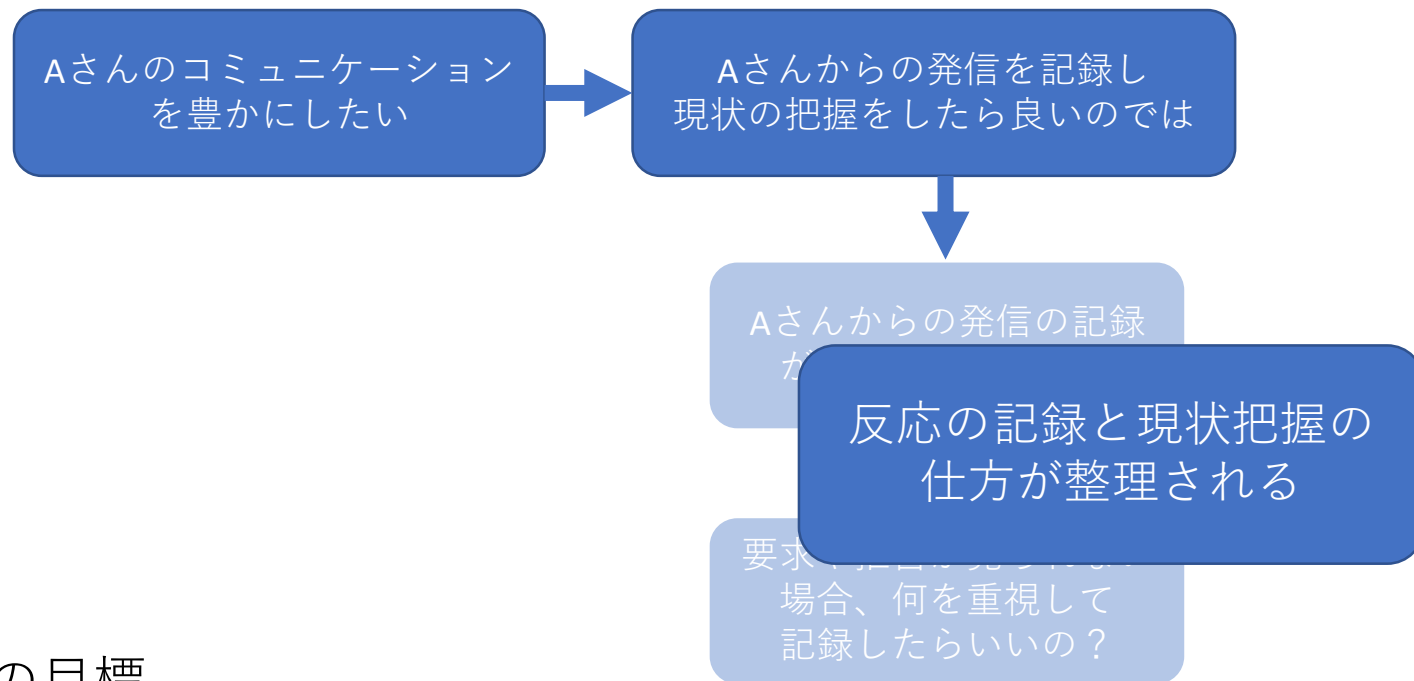
集めた反応とその状況から子どもの
気持ちを想像するためのヒントを得る
定位反応等の認知の理論を参考にする

活用の仕方が分からない

日常のコミュニケーション改善の視点
飲み物、おもちゃ、音楽、睡眠分析、
学習に適切な時間の分析...等

できるようになってきたことと 次の目標

- 確認したいものを、確認することができるようになってきた



次の目標

「何のために実践を始めてその結果をどこに返すか」ということを、
教員が学べば、実践できる、ような状況にもっていきたい

→ この実践の中にヒントが含まれていませんか

新しい実践の枠組みの提案

- 支援者の主観も実践に内包する

Aさんのコミュニケーション
を豊かにしたい

豊かさは、Aさんの
能力や能力拡張
の中にのみあるも
のではない

Aさんからの発信を記録し
現状の把握をしたら良いのでは

具体的な場面で
Aさんを取り巻く
支援者の主観も
サンプルの対象

Aさんからの発信の記録
か

反応の記録と現状把握の
仕方が整理される

要求
何を重視して
たらないの？

支援者の主観が
少しずつ高まる
のをねらって
成果を活用する

考察

- 実践の結果を返すのは支援者の人たちのなか
- 現状のコミュニケーションの実態が分かれば
何を確認し何を提案したら良いかが整理される
- コミュニケーションの実態には、支援者の主観も含まれる
- 主観－客観を分けることなく
高めていくことが重要であるということを学んだ
- 中心となる人には確かめのための技術や知識がいる
- 時間がかかることを利用することで人とつながる